

# アッシリア帝国東部辺境を掘る

—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト：第8次調査(2024年)—

西山 伸一 中部大学人間力創成教育院・教授

山田 重郎 筑波大学人文社会系・教授

沼本 宏俊 国士館大学体育学部・教授

サーミー・ジャミール・ハマ＝ラシード クルディスタン地域政府スレイマニヤ古物文化遺産局・職員

ハーシム・ハマ＝アブドゥッラー・アブドゥッラー クルディスタン地域政府スレイマニヤ古物文化遺産局・局長

## Excavating the Eastern Fringe of the Neo-Assyrian Empire: Yasin Tepe Archaeological Project (YAP), Iraqi Kurdistan, Results of the 2024 Season

NISHIYAMA, Shin'ichi Professor, School of General Education, Chubu University

YAMADA, Shigeo Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, University of Tsukuba

NUMOTO, Hiroto Professor, Faculty of Physical Education, Kokushikan University

HAMA RASHID, Sami Jamil Staff, Slemani Directorate of Antiquities and Heritage, Kurdistan Regional Government, Republic of Iraq

ABDULLAH, Hashim Hama Abdullah Director, Slemani Directorate of Antiquities and Heritage, Kurdistan Regional Government, Republic of Iraq

### 1. はじめに

中部大学が中心となっている Yasin Tepe Archaeological Project (YAP) は、2016 年以來、イラク共和国クルディスタン地域スレイマニヤ(クルド語の呼称：アラビア語ではスレイマニヤ)県南部、シャフリゾール平原に位置するヤシン・テペ遺跡とその周辺を対象として考古学調査を実施している。2024 年の調査は、イスラエルの侵攻がガザからレバノンへと拡大し、中東情勢が緊迫する中、フィールド調査を無事実施することができた。調査期間は、2024 年 8 月 28 日から 10 月 4 日、および 11 月 23 日から 12 月 6 日であった。

今回の調査の目的は、3 つあった。第 1 は、アクロポリスの南斜面において、2022 年に設定したステップトレンチ(H 地区)を北(つまりテルの上部)に拡張し、アクロポリスの編年的層位を調査することであった。今回の調査で、テルの頂上に到達することとなり、テルの南東部における仮編年が明らかになった。第 2 は、テルの東部に位置する「東門」の試掘調査を行うことであった。これにより、テルの「東門」がどのような時代に形成されたのかを知る糸口をつかむことができる(図 1)。第 3 は、「下の町」および遺跡の南方に位置する村落遺跡(SSP 4 & 5)において地下探査を実施することであった。

### 2. H 地区(ステップトレンチ)

遺跡の中央部に位置するアクロポリスでは、2023 年に引き続きマウンドの南東部に設定したステップトレンチ(H 地区)を継続した(図 2)。2023 年はマウンドの中腹部で青銅器時代から鉄器時代の文化層を検出したが、今回は、トレンチをさらに上部および西方に拡張して青銅器時代以降の文化層の検出に努めた。また、2023 年に検出された青銅器時代の日干レンガ壁の部分とその上層の鉄器時代の部分は、その広がり



図 1 ヤシン・テペ遺跡のアクロポリス全景と 2024 年の調査区(南東より UAV による撮影)。

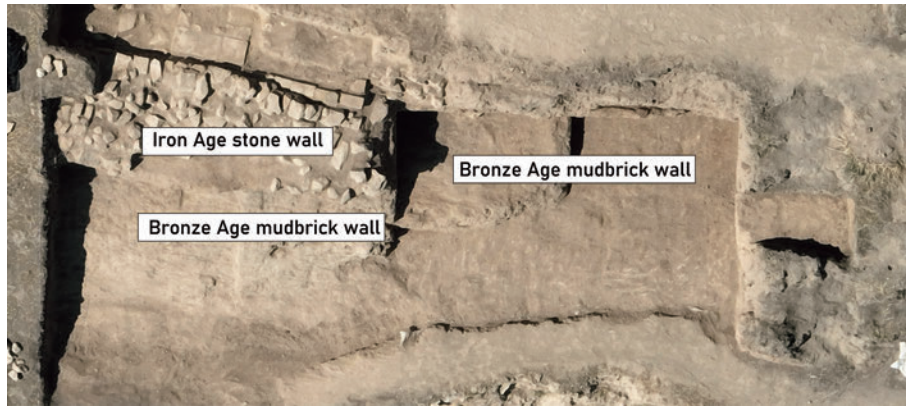


図3 ステップ5および5W1で検出された日干レンガの壁(南より)。

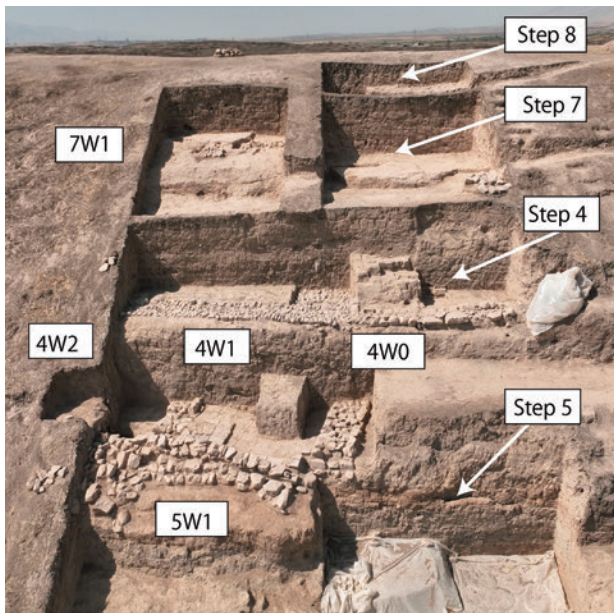


図2 ステップトレンチ(H地区)全景(南東より)。

確認するため西方に広げた。今回、ステップトレンチは、マウンドの頂上部に到達することができた。全体として調査範囲は、10 m×15 m、約 150 m<sup>2</sup>であった。以下、ステップの下段より説明する。

まず、2023年、青銅器時代(おそらく中期～後期青銅器時代)の日干し煉瓦による城壁と思われる大型壁が確認されたステップ5とその西方への拡張部(5W1)について見てみる(図3)。西方に拡張した部分からは、表土直下より鉄器時代の石壁が現れ、その下に砂質の赤色土層と灰色土層が堆積していた。これらの層は、青銅器時代の日干レンガ壁の上に堆積しており、おそらく鉄器時代の壁を構築する際に、青銅器時代の壁の上端の高さを均一にするため意図的に積み上げられたものと考えられる。つまり青銅器時代の壁を利用して鉄器時代の壁が作られたことを示している。

青銅器時代の壁は、拡張部からさらに西方に続いて



図4 5W1上層で出土した石積み壁と関連遺構(写真上が北)。四角形を呈する「暖房用基壇」は写真の中央部少し左手にある。

いることから、これは東西に延びる城壁であろうと考えられる。ステップのセクションから判断すると、青銅器時代の堆積は少なくとも3～4 mはあると推測される。日干レンガ壁を観察すると、平積みレンガと斜めに配置されたレンガが見られた。後者のレンガは、おそらく城壁の外側を覆っていたレンガと思われる。つまりこの部分の城壁は「斜堤(グラシー)」であったのかもしれない。

青銅器時代の城壁の上に構築されていたのは、石積み壁をもつ鉄器時代の構築物である。鉄器時代の文化層は、ステップ5の上層から、上方のステップ4にかけて検出された。2023年は、ステップ4のみで鉄器時代が検出されたが、今年度トレンチを西方に拡張したところ、鉄器時代の文化層はより広い範囲に及んでいることが確認できた。

ステップ5の上層では、南端で幅0.8 mの石積み壁が見つかり、その内側に日干レンガが敷かれた部屋があった(図4)。この部屋では、「下の町」の大型建造物でも発見された焼成レンガ製で四角形を呈する「暖房用基壇」が発見された。南端の石積み壁は、壁



図5 ステップ4で出土した東西に延びる石積み壁とその周辺(写真上方が北)。

の基礎と考えられるが、奇妙なことに2段の石積みの下に焼成レンガが敷かれた1段があった。さらにその下に1段の石積み壁が確認できた。この壁の下に上述した砂質の赤色土層があった。この部屋はまだ完全に検出されておらず、その北半分は、ステップ4の下に埋もれている。将来的にこの部屋の全貌を明らかにしたいと考えている。

さて、ステップ4では、東部で南北に延びる日干レンガの壁(幅約1.2m)が検出された。この壁の南には、東西に延びる長い石積み壁が発見された(以下「東西壁」)(図5)。この東西壁の東部分は、2023年に検出した石積み壁に接続する。東西壁は、トレンチの幅を超えて東西に伸びており、城壁の一部だった可能性がある。ただ壁の厚さは、0.8mと一般的な住居の壁の厚さとさして変わらないことから、この壁自体が城壁ではなかったと思われる。おそらく、住居の壁が城壁を形成していたのではないだろうか。

トレンチの西方(4W0 & 4W1)では、東西壁の内側で石敷きの床面、および東西壁と直行する石積み壁が検出された。まだ全貌は明らかになっていないが、石敷きの床面は、「中庭」、あるいは「通路」であった可能性がある。いずれも鉄器時代に年代付けられる。

ステップ4の上方では、マウンドの頂上部まで伸びるステップ7と8が発掘された。まずステップ7では、粘土塊を含んだ非常に硬い壁状構造物および日干レンガの壁が検出された。またステップ7の西方(7W1)では、断片的な石積み壁や灰ビットなどが発見された。上述の壁状構造物は、この西方で途切れており、城壁とは考えにくい。この構造物の性格は目下検討中である。発見された遺物は土器片が圧倒的多数を占めるが、明らかに鉄器時代より後の時代と考えられる。おそらくパルティア時代と推測している。

ステップ8では、ステップ7と類似した粘土塊を含む壁状構造物が表土直下で検出された(図6)。この構

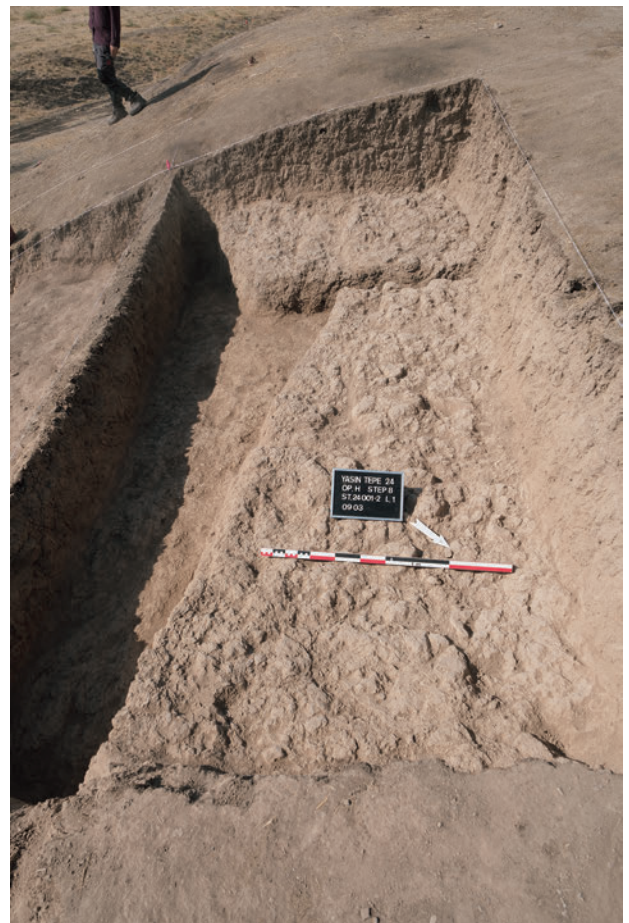


図6 ステップ8で出土した粘土塊を含む壁状構築物(南より)。

造物は、おそらくマウンドの縁辺部を断片的に取り囲むように配置されていたと考えられる。私たちは、マウンドの上層には厚いイスラム時代の堆積があると推測していたが、調査した南東部においては、イスラム時代の堆積は非常に薄かった。その理由については、今後慎重に検討していかねばならないだろう。1970年代のイラク隊の調査では、マウンド北部でイスラム時代の厚い堆積が確認されている。しかし、今回の私たちの調査成果は、マウンドの上部すべてにイスラム時代の文化層が厚く堆積しているわけでは



図7 「東門」南部の試掘坑。イスラーム時代の文化層が検出された。

ないことを示している。

### 3. アクロポリス「東門」の調査

アクロポリス東部には、城門と思われる窪んだ地形が確認できる。また、その周辺には、大小の石壁が地表に見えている。私たちは、ステップトレンチでアクロポリスの編年を構築するとともに、アクロポリスの性格を明らかにしたいと考えている。このため、まずはアクロポリス内部にアクセスする城門の検出を目指すこととした。城門は、イスラーム時代はむろんのこと、鉄器時代・青銅器時代まで遡ると考えられる。今回、最も明確な城門の痕跡をもつ「東門」を選択し、調査を開始した。地表面に見える石壁などの遺構をUAVで記録した後、2m×2mの試掘坑を発掘した(図8)。今回は、イスラーム時代の文化層のみ検出した時点で時間切れとなったが、将来的に東門の調査を進めていきたいと考えている。

### 4. 地下探査と文化庁委託事業

夏季の調査に加え、11月末から12月にかけて、スレイマニヤ古物文化遺産局と共同で、遺跡の地下探査を実施した。これは、文化庁委託事業の考古学遺跡保護の研修の一環として行われた。今回は、「下の町」東部の未調査地点、アクロポリスの南東部、およびヤシン・テベ南東に位置する村落遺跡(SSP4 & 5)で探査を実施した。これにより現地専門家の人材育成をはかるとともに、遺跡の性格や機能を推測できるデータを取得できた。

中部大学は、令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業の委託を文化庁より受けており、夏季の調査では、現地専門家や学生を受けて入れて考古学のフィールド

調査の方法や、分析手法、および博物館展示などの研修を行った。現地の人材育成は、まだまだ途上であり、今後ともできるだけ支援を継続できればと考えている。

### 5. まとめ

ヤシン・テベ遺跡の調査は、来年度で開始10年を迎える。これまでの調査により新アッシリア帝国時代の拠点都市の様相が徐々に明らかになってきた。今年度は、アクロポリスの調査を中心に進め、頂上部まで到達したことから、マウンド南東部の文化層シーケンスを明らかにするとともに、鉄器時代の層を将来的に拡張できる目途がたった。今後は、これまでの調査成果の公表に努めるとともに、考古学調査と並行して、文化遺産保護事業についても貢献してゆきたい。

2024年の調査は、日本学術振興会・科研費・萌芽研究「考古学・地理情報科学の融合からみる文化財の新たな記録システム構築に向けた研究」(代表：西山伸一)(課題番号21K18384)、基盤研究(B)「考古学・考古科学分析から構築する北シリア鉄器時代村落生活に関する新歴史像」(代表：津本英利)(課題番号23K25401)、基盤研究(A)「西アジアの古代文明における薬草利用の解明」(代表：足立拓朗)(課題番号24H00098)の支援を受けた。

また、渡部展也(中部大学)、黒澤正紀(筑波大学)、Jeanine Abdul Massih(レバノン大学)、Mouhamad Abdel Sater(レバノン大学)、Nehme Abou Rjeily(レバノン大学)、Ralda Salamoun(レバノン大学)、Yara El Helou(レバノン大学)、Eliana Tablieh(レバノン考古総局)らのご協力に深く感謝致します。

また、いつもプロジェクトに様々な便宜を図っていただいているKeifi Mustafa Aliクルディスタン地域政府古物文化遺産総局・総裁、Hussein Hama Gharib Hussein スレイマニヤ古物文化遺産局・前局長、Nawshirwan Aziz Mohammed スレイマニヤ古物文化遺産局・発掘調査部長、およびスレイマニヤ古物文化遺産局とスレイマニヤ博物館の方々に御礼申し上げます。

#### ■参考文献

- ・ Yasin Tepe Archaeological Project (Japan). 2024 Yasin Tepe Archaeological Project (YAP): Field Report of the 2024 Season, Slemani, Iraqi Kurdistan (Submitted to the Slemani Directorate of Antiquities, September 2024).
- ・ Nishiyama, S. and Yamada, S., 2023 Nabū at the Frontiers of the Assyrian Empire: An Inscribed Bronze Necklet from Yasin

- Tepe, Iraqi Kurdistan, Zeitschrift für Assyriologie und Vorderasiatische Archäologie, 113/2, 250-265.
- ・西山伸一・H. ハマー=アブドゥッラー・山田重郎・沼本宏俊 2022「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・2021年度の成果—」『第29回西アジア発掘調査報告会報告集：令和3年度 考古学が語る古代オリエント』43-48頁 日本西アジア考古学会
  - ・西山伸一・山田重郎・沼本宏俊・S. ジャミール・R. サーレフ・H. ハマー=アブドゥッラー 2023「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェ

- クト・第6次調査(2022年)—」『第30回西アジア発掘調査報告会報告集：令和4年度 考古学が語る古代オリエント』113-118頁 日本西アジア考古学会
- ・西山伸一・山田重郎・沼本宏俊・S. ジャミール・N. N. ハマ=ハサン・H. H. アブドゥッラー 2024「アッシリア帝国東部辺境を掘る—イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・第7次調査(2023年)—」『第31回西アジア発掘調査報告会報告集：令和5年度 考古学が語る古代オリエント』128-133頁 日本西アジア考古学会